

令和6年度山形県農業普及活動外部評価結果について

1 普及指導活動の体制について（組織・人員体制、普及指導員の資質向上の取組み等）

①評価点

- ・後継者不足、担い手不足に対して重点が置かれている点が良いと思う。
- ・地域ごとに課題が適切にでており、その解決策も具体的で良い。
- ・専門的な知識を持って農業者に寄り添っていて大変ありがたい。地域の課題や目標の設定が的確だと思う。
- ・プロジェクト活動と通常の普及活動を臨機応変に、バランスをとりながら実施していることが分かった。
- ・集合研修などでは、主催部署と各普及センターとの連携がよくできているといつも感心している。課題の設定が、高齢化していく今の農業の問題に対応しており、特に産地を維持、元気にしていくための取組みはすばらしいと思う。点だけの支援ではなく、部会育成や研究会発足など、組織をつくり面として農業の課題に立ち向かう方針に大変共感する。
- ・8つの農業技術普及課を設置し、地域密着型の活動を行っており、現場での技術開発を進める「産地研究室」も各支所に配置されていることは、農業者へのきめ細やかなサポートを実現していると考えられる。また、「人づくり」「魅力づくり」「農村づくり」といった重点課題を明確にしており、総合的な農業振興に向けた取組が体系的に行われている点も優れている。

②提案・意見

- ・プロジェクトの最終年度の課題が多かった。最終年度は、ここまでの課題整理、成果に加えて、翌年以降自走できる仕組みづくり、プロジェクト終了後もどう取り組みを継続させるか、その後伴走していくか、このあたりも掘り下げて発表してほしい。
- ・農業普及職員数は全県で139人と限られている中、地域ごとの農業者支援ニーズの多様化・複雑化にきめ細かく対応できるかという部分が懸念される。そのため、農業振興に不可欠な人材確保・育成の体制強化が必要であると考えられる。さらに、普及指導員の資格取得には試験合格が必須であり、育成期間が長期化する傾向があると推察できるため、現場での実践研修や支援制度の拡充を図ることで、人材育成のスピードアップと持続的な普及体制の確立が求められると考えられる。
- ・人員の配置に関して、急な退職や休職の場合はどう対応するのか。専門的な知識や技術の継承にDXを用いたマニュアルなどの作成が必要。
- ・温暖化が進む中、高温対策について、果樹、野菜、米それぞれ対応策を見つけてほしい。同じ理由から作物の栽培計画の見直しをしてほしい。

- ・農産物直売所が生産者の高齢化で縮小傾向である。支援も受けにくく、あり方の検討が必要になってきている。生産者にとって大事な売り先がなくなってしまうのは困る。地域の課題としてなんとかできないものか。

③意見を受けての改善点

- ・普及課活動計画が終了する際には、指導対象が自立的に取り組んでいくことができるよう、活動の成果や残された課題などの状況に応じて、終了後の取組の方向性を整理する。
- ・若手職員の早期育成も急務であると考えている。普及指導員資格取得対策研修、OJTによる指導に加え、各種研修を通じたスキルアップ、指導力の強化を図っていく。
- ・プロジェクトチームを編成してチームとして普及活動にあたっているほか、一部の普及課題においては、技術の継承に関するマニュアル作成も行っている。今後はICT等の技術を活用した普及指導員の専門知識の習得、技術継承も進めていく。
- ・R5に作物ごとに作成した高温少雨対策マニュアルに基づき、気象変動に対応した栽培技術の指導を強化していく。
- ・地域の実情に応じて、農産物直売所の販売力・運営力強化を支援するとともに、販売力の高い農産加工実践者の育成も進めていく。

2 普及指導計画について

【評価】 A：優れている B：妥当である C：見直しが必要

(1) きゅうりスマート農業の推進による産地強化

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・多方面からの支援体制が組み立てられており、今後も引き続き若手育成に励んで頂きたい。
- ・スマート農業で新規就農者や既存の農家が生産向上、品質の安定化を目指しやすい。
- ・若手に対する支援はとても良いと感じる。今後この活動により産地が継続してきレベルアップしていくことが期待できる。
- ・熟練者と若手を普及がうまくコーディネートしている点が伺える。
- ・学習会でデータを共有し、会員同士の大きな刺激になるよう意図し、ベテラン農家の指導や個別指導など熱意ある活動により新規就農者のモチベーションアップにつなげている。

②提案・意見

- ・ハウス栽培における高温対策のあり方を見直す必要がある。
- ・11名に対して、個別の対応がもっと必要だった場面があるのではないかと。技術は向上

しているがまだ十分ではないようである。

- ・スタディクラブでの意見交換や指導体制も評価できるが、今後さらに広く生産者を巻き込むための体制整備や、持続可能な支援体制の強化が求められる。

③意見を受けての改善点

- ・次期課題の指導事項「産地の持続に向けた技術の普及拡大」では、既存の高温技術の展示・情報発信に加え、これまで行われてきた高温期の定植を回避するような作型の検討等にも取り組んでいく。
- ・11名が抱える課題は対象者によって異なるため、次期課題の指導事項「新規就農者等の単収向上」では重点対象者を選定し、個別巡回指導と講習会等の集団指導を組み合わせ、若手の栽培技術や収量レベルの向上を図る。
- ・次期課題においても、若手生産者の技術向上支援を続けるとともに、熟練・若手問わず近年被害が拡大している高温や病害虫等の問題についても、技術の発信や、実態調査を通じて対策を講じ、産地の持続発展につなげる。

(2) すももの新たな団地の育成と安定生産による産地活性化

【A：6名】

①評価点

- ・すもものを栽培する人が確実に増えており、品質向上に向けた取組もなされている。
- ・継続して団地化、収量の増加、生産者の拡大に取り組んでいけると期待している。
- ・新品種の高品質栽培技術を支援し高単価での販売につなげ、ライバルの少ない中晩生品種を植えるなど活動の成果が実を結んでいる。
- ・普及課として「何ができるのか」を現場基点で明確にしている。
- ・栽培講習会や個別指導、品質向上のための環境モニタリング導入など、多角的な活動が展開されている。JAや町役場、試験研究機関など関係機関と連携し、組織的なサポート体制が構築されている点は優れている。

②提案・意見

- ・結実対策だけでなく、部会会員数が伸びたのか、一人当たりの収量増加、面積増加、単価高等、よかった要因をさらに分析してほしい。
- ・OSINの会での栽培技術の統一や新規就農者の安定的な確保は今後さらに注力が必要である。

③意見を受けての改善点

- ・すもも、特にオリジナル品種は、高温に強く、温暖化が進行していく中でも安定して栽培できる品目と考えている。出荷量増加の要因として、幼木が成木となり、1樹当

たりの収穫量が増加したことや単価高が挙げられる。令和5年～6年にかけて、さらに苗木の導入が図られたことから、今後も生産量が伸びていくと考えられる。引き続き令和7年度からの普及活動計画の中で、新規就農者の技術指導とオリジナル品種を核とした長期出荷による生産拡大の支援に取り組んでいく。

- ・OSINの会会員を対象とした勉強会や個別指導により、新規就農者の技術向上を図っている。今後も継続して指導を続け、早期の経営確立を図っていく。

(3) 商品企画力の高い農産加工事業者の育成支援

【A：4名、B：2名】

①評価点

- ・コンセプトシートは一見して進捗状況が分かりやすく、効果的に使うことで、具体的なイメージができ商品のブラッシュアップにつながっている。
- ・規格外のもったいないを何とかする加工から、しっかり商売としての農産物加工販売にするための支援が成果としてでてきている。
- ・関係機関と連携し、営業許可制度の支援から商品コンセプト作成、パッケージデザイン支援、販路拡大支援まで包括的な活動が行われている。事業者の声を反映しつつ、実践的なサポートが充実している。

②提案・意見

- ・地区内で加工に取り組みたい対象者をもっと見つける工夫、どのような加工が出来るかの周知があれば検討や参加がしやすい。
- ・今後、ベテラン農家の漬物など伝統の加工技術が高齢化やHACCP義務化で辞めていくことが懸念される。今回の様な新規担い手にベテラン農家の技術を受け継ぐための支援も検討してほしい
- ・販売金額の数値目標があればもっと良かった。加工商品はコストがかかっている分売れないと赤字になる。

③意見を受けての改善点

- ・新規起業を志向する農家は増えているが、起業のノウハウがない、関係事業者と連携したいがどのようにしたらよいかわからない、という方がほとんどである。次年度以降も、研修会などを通じて関連法規や加工技術などについて理解を深めながら、新規起業や新規事業の支援を行う。その際には、今回モデル起業家として支援した事例を紹介しつつ伴走支援していきたい。
- ・漬物についてはHACCP義務化で辞めたベテラン農家も多い。まずは継続する方、近年新たに始められた方にHACCPの取組の定着と改善を図る取組を行い、その上で、伝統的な加工技術についても知見を収集していく。

- ・次年度以降も、農産加工総販売額の目標数値設定を行い、それに向けて包括的な支援を実施していく。

(4) 最上主要野菜の次世代リーダー育成

【A：6名】

①評価点

- ・野菜の研究会や部会の継承は特に難しいと感じていたため、取組に期待している。
- ・勉強会を開き仲間同士で切磋琢磨している。各地でリーダーが誕生していて順調に成果が出ている。
- ・先進農家、しかも若手農家をアドバイザーとすることは、その本人にも周囲の農家にも刺激になり、理想的な形である。
- ・各部会、反収・技術向上に加え、冬の促成山菜など生産振興の成果もでてきている。
- ・研究会の開催、個別指導、現場巡回など、実践的な活動内容が充実している。JAや各市町村、農業団体と連携したサポート体制も適切で、若手生産者同士のネットワーク構築を促進している点も高く評価できる。

②提案・意見

- ・さらなるリーダーの育成、発掘ができるかが課題となってくる。親子間の事業継承にも取り組んでほしい。
- ・若手部会で獲得した技術を事例集、Q&A集にまとめ、普及活動終了後も部会が継続するためのリーダーや事務局の育成に活用するなど、今後につながる仕組み作りがあればなおよかった。
- ・リーダー育成においては初期段階であり、地域全体への波及や持続的な担い手確保には今後の取組が必要である。

③意見を受けての改善点

- ・これまでも経営継承の相談には対応しており、次年度も相談があれば担い手担当と連携して対応していく。
- ・部会で獲得した技術については、研修会等において周知を図っており、次年度の新規課題においてもリーダー育成について取り組んでいく。

(5) 新規就農者の育成・確保によるアスパラガス産地の活性化【A：4名、B：2名】

①評価点

- ・担い手不足がどこでも問題になっている中、人材の掘り起こしが産地の活性化につながっていて効果的な良い取組だと思う。

- ・アスパラガスの魅力を多くの人に伝えられたのが良かった。補助金に頼らずアスパラガスで収益を得られてみんなが成長できる支援体制になっていると思う。
- ・農家さんはなかなか新しいことへの取組を躊躇する中で、これだけの新規栽培者を増やしたことは素晴らしい成果である。
- ・「アスパラ栽培道場」の講座開催、現地指導、SNS 活用による情報発信、サポートチームによる個別支援など、多角的で継続的な活動が評価できる。市町村や JA、試験研究機関との連携も密で、技術習得から販路支援まで包括的な体制が整っている。

②提案・意見

- ・栽培の定着、収量や面積の拡大が行えるのか、趣味のアスパラガス栽培にならないのか検討が必要。
- ・今後、栽培レベルに合わせた指導を行うことで新規栽培者と農業者それぞれのレベルアップにつながるのではないかな。
- ・今後の展開にある生産者間の交流は、せっかく立ち上げた SNS で農家の栽培の悩みをオンラインで質問しあう場をつくってはどうか。また、部会内の反収ランキング（本人のみ順位を伝える）や反収伸び率を表示するなど徳島の馬路村の葉っぱビジネスのような刺激しあう仕組みを検討してはどうか。

③意見を受けての改善点

- ・これまでの活動で多くの生産者が産地の担い手として定着してきた。今後も、普及活動の対象者を「営利目的で栽培する農業者」と定めた上で指導を実施していく。
- ・アスパラガスは定植年数によって必要とする栽培管理の知識や技術が異なる。それぞれの生産者が必要とする情報を伝え栽培管理につなげてもらえるように、今後も工夫しながら技術指導を実施していく。
- ・SNS については、今後も様々な活用方法を検討し、利用者にとって有効かつ効率的に活用できるものになるように常にバージョンアップを図っていきたいと考えている。利用者のプライバシー保護の観点等、SNS 活用によるデメリットを常に意識して利用者が困惑、混乱することがないように運用していく。
- ・生産者同士が切磋琢磨できると産地全体のレベルアップにつながると考える。JA ではこれまでも優良生産者への表彰事業を実施しているが、今後の活動の中では生産者間交流を促進することで、より生産者同士の関係性を深め、刺激し合える仕組みづくりにつながる活動にしていく。

(6) 地域内自給飼料生産・利用拡大による畜産経営基盤の強化

【A：3名、B：2名、C：1名】

①評価点

- ・飼料代高止まりへの対応と、3つの資源（子実用とうもろこし、大豆、草地）があることをうまく組み合わせている。
- ・餌を変えることは畜産事業者にとって大きな挑戦である。新たに子実用とうもろこしを開始した件数が6件増えた事は大きな成果である。

②提案・意見

- ・今後飼料作物を増やしていけるのかが課題。
- ・耕作が難しい山間地では放牧による農地の利用モデルの作成が急務だと考える。
- ・子実用とうもろこしの生産を採算ベースでどの位必要なのか、などの目標値があるとよい。牧草の生産向上の方法を模索してほしい。
- ・子実用とうもろこし、規格外大豆、放牧場の更新などまだ伸びしろがある。このまま実用的になるように活動してほしい。
- ・緊急性かつ経営存続の重要性の高い課題であるため、研究会の立ち上げや収支改善への効果を広める講演会など面的に広がるような活動を期待する。

③意見を受けての改善点

- ・飼料価格の高止まりが続く中、今後、自給飼料の重要性がより一層増していくと考えている。自給飼料の生産拡大に向け、新規栽培者の掘り起こしや事例紹介等に継続して取り組んでいく。
- ・管内行われている山間地での簡易放牧等は、飼料自給や中山間農地の有効利用の観点から重要な取り組みと考える。今後、放牧技術の普及等について検討していく。
- ・今後も、現在の単価で採算が合うと見込まれる500kg/10aを目標として取り組んでいく。牧草についても有望品種の導入や草地管理指導等と併せ、計画的な草地更新に取り組んでいく。
- ・それぞれの取組について、これから解決すべき課題もあることから、関係機関と連携しながら、実用化に向けた検証、導入支援を継続していく。
- ・自給飼料の中でも、特に子実用とうもろこしについては、栽培や経営収支の面で課題も多いため、研究会等を立ち上げ、生産者や関係機関と協力しながら取組を進めていく。また、普及活動で得られたデータや優良事例について研修会等を通して普及を図っていく。

(7) スマート農業技術の推進による「つや姫」「雪若丸」の高品質・良食味米の安定生産

【A：6名】

①評価点

- ・生産現場の声を聞き機能をアップデートして、生産者が正確な情報を得られ便利に使えるようになったことが良い結果につながっている。
- ・生産者のリクエストに基づいて機能が充実していくと良い。
- ・生産者へのアンケートや現地指導の実施によって、利用促進や栽培技術向上の成果も確認でき、明確な成果が得られている。
- ・協力機関との連携構築が素晴らしい。認知度、メニューを増やすことでさらなる推進につながる。
- ・社会実装に結びつく活動となった点が認められる。

②提案・意見

- ・スマート技術を高齢の方が使いこなせるかが課題かと思われる。
- ・閲覧率は上がっているが、実際に運用している人数、シェア率でどのくらいか。

③意見を受けての改善点

- ・70代以上の生産者の閲覧率は26%（R5）から30%（R6）に向上した。今後も生産者の年代等に対応した指導方法（印刷物の活用など）をJA等と共有し、スマートつや姫の診断・予測情報の内容を高齢の方にもお伝えしていく。
- ・管内つや姫認定生産者における閲覧率は約50%で、そのうち「参考になる」と回答した割合が約80%であった。つや姫生産者に限定し、実際に運用している人数を「参考になる」と回答した生産者数とみなすと、生産者の約40%に相当する約1,000人が実際に運用していると推測される。閲覧者の多くが技術を高く評価しており、今後も閲覧率の向上に取り組む。

(8) 庄内ハウスアスパラガスの早期成園と高位安定生産による産地強化

【A：4名、B：2名】

①評価点

- ・栽培技術はもちろんのこと、ハウス整備の補助事業、資金繰りに関して相談出来るのはとても心強い。
- ・面積を増やしにくいハウス栽培で、栽培品目にアスパラガスを選択する経営体が増えているのも、長期どりや早期成園化の栽培支援の成果が出ていると感じる。
- ・普及組織らしいきめ細かい支援活動が行われている。
- ・早期成園化技術の普及、多収技術実証圃設置、栽培環境のモニタリング、研修会な

ど、具体的で多様な取組が実施されている。JA や市町、関係機関との連携も密に行われている。

②提案・意見

- ・普及課を中心にして各機関が産地強化にむけて協力しているが、猛暑の影響など問題がでており、生産者のために継続して支援していただきたい。
- ・多収栽培実績者のノウハウを、言葉にできないのが農業の特長であるが、モニタリングから数字で解析し、技術が見える化することはすばらしい取組であり、普及活動のベースの支援スキルとして横展開してはどうか。
- ・一般的な指導だけではなかなかベテラン農家は変わらないため、どのように独自の普及指導技術を作ったのか、成功要因を分析してほしい。

③意見を受けての改善点

- ・令和6年度の普及活動で、実証ほ担当農家の聞き取りデータと照らし合わせて分析し、ハウスアスパラガス栽培マニュアルを作成した。その中で環境モニタリングデータの活用方法について記載している。新規就農者からベテラン農家までわかりやすく、幅広く活用できるよう作成した。令和7年度の普及計画では、栽培マニュアルを活用して現地指導に活かしていきたい。

3 総評

①評価点

- ・待ったなしで5年後には後継者不足になると感じている。どの地区でも担い手育成に関して一生懸命取り組んでいただきありがたい。
- ・これからは効率化、マニュアル化された農業の道筋がなければ、後継者が簡単に農業に留まってはくれないのではないかと思う。活動のマニュアル化やアプリの開発はありがたいと感じる。
- ・産地ごとの気象条件を活かしながら、先輩と若手、ベテラン農家と新規就農者といった縦のネットワーク強化や組織化を、現場を熟知している普及指導員がうまくコーディネートしている。

②提案・意見

- ・各地区で課題を出す際、どのような方法で普及課題を選定しているのか。
- ・新規就農者、40代の農業者、65歳以上のベテラン農業者など年代によって課題が違う。数年に1回でもよいので、世代ごとの課題にフォーカスしたテーマやプレゼンテーションがあると、どの世代もより長く農業を続けられたり、さらに農業を発展

させたりする上で良いのではないか。

- ・スマート農業などの最新技術や時事で話題になっていることはメディアでも取り上げやすい。メディアをうまく活用していただき、農業全体でよい方向に進んでいけるとよいと思う。

③意見を受けての改善点

- ・普及課題の設定においては、現場ニーズと県の戦略・施策等踏まえ、県が定めた「協同農業普及事業の実施に関する方針」に沿って設定している。環境負荷低減や温暖化対応、スマート農業技術の普及推進など、長期的な視点を持ちながら、関係機関・団体と連携して普及課題を設定していく。
- ・普及指導対象の経験や技術力などに応じた課題を明確にし、課題解決のために細やかな普及活動を展開していく。
- ・委員の皆様からいただいた貴重な意見を、次年度以降の普及計画に反映していく。